

会津大学開学 30 周年記念事業
コミュニティ・スペース「きやれ」整備事業 実施報告書
<https://u-aizu.ac.jp/curriculum/internal/student/kiyare.html>

2024. 2. 22

会津大学学生部 金子恵美子

I. 経緯

第3期中期目標・中期計画(2018年3月22日)において、入学者に対する女子学生の割合目標値が「15%」だったが、2020年5月時点で実績は9.4%であったのを始め、過去に15%の目標値を達成したことはなかった。日本の大学の工学部の女子学生率が15%であることを考えると、会津大学は特に女子学生率が低い大学である。

2021 年度

- 女子学生を増やすため、有志の女子教職員が女子学生を増やすためのプロジェクトを非公式(事務局長承認)で開始。
- 女子在学生に対し、アンケート・インタビューを実施。照明や雰囲気~~が~~薄暗くて殺風景、学生が集まれる場所が欲しい、寒々しい、友達を作る環境が少ない、空調設備の整っているところがない、不潔、汗臭い、ソファは汚いような気がして座りたくない、などの意見が上がり、効果的に使われていなかった学食前の部屋(旧はなみずき)を女子学生の居場所として整備するというアイデアが出た。

2022 年度

- 会津短大の建築デザインご専門の柴崎恭秀先生とゼミ生にご協力を仰ぎ、四大の有志の学生との意見交換の場を持った。そこで、「コミュニティスペース」を作りたい、という要望が出た。この時点で、「女子学生を増やすことを目的とした空間」という位置づけではなくなった。
- どのようなデザインが好ましいか、学生にアンケートを取ったところ、「ウッディな感じ」という意見が圧倒的多数を占めた。
- 大学の予算で、床を木目のフローリングに張替えた。

2023 年度

- 会津大学開学 30 周年事業として、同窓会、後援会からの寄付金でコミュニティスペース整備事業を行うことが決定された。また、地元企業からもご寄付頂いた。*1
- デザインは、会津短大柴崎先生のご紹介で、会津短大非常勤講師の長沖充先生に依頼した。コロナ禍後の材料費高騰により、長沖先生の本来のデザインから部分的な変更を余儀なくされた。

- 公募により、名前が「きやれ」(南会津南郷地区の会津方言で「来てください」の意)に決定した。
- 東京オリンピック・パラリンピックのため、福島県が提供した木材(所謂「レガシー材」)を利用して、会津短大の柴崎先生がカウンターテーブルを作成、会津大学に贈呈。
<https://u-aizu.ac.jp/curriculum/internal/student/kiyare.html#link02>
- 地元のボランティア講師のもと、会津大学の女子学生が会津木綿でファブリックパネルを制作するワークショップを開催。
<https://u-aizu.ac.jp/information/post-20230158.html>
- 会津木綿を使用したクリスマスオーナメントづくりワークショップを開催。
<https://u-aizu.ac.jp/information/post-20230169.html>
- 12月15日(金)に開所式実施。
<https://u-aizu.ac.jp/information/post-20230171.html>

*1 寄付・寄贈者

(敬称略・50音順)

会津大学後援会

会津大学同窓会

会津産学懇話会

会津土建株式会社

末廣酒造株式会社

株式会社トコム

株式会社ナディス

有限会社ワンピース

会津若松商工会議所 漆器部会(漆看板寄贈)

<https://u-aizu.ac.jp/curriculum/internal/student/kiyare.html#link01>

II. 今後

普段は、学食の延長として、解放している。充電できる USB のソケットもあり、勉強やグループワークのために使用している学生が多数見受けられる。

一方、貸し切り利用の手続きも整備されている。本来、興味や関心を共有する「コミュニティ」の人々が集い、交流し、イベント等の活動を通し、同じ価値観やつながりを育む場である「コミュニティスペース」として、会津大学内のコミュニティのみならず、地域の人々とも交流し、地域のコミュニティ作りのために使用されることを願う。プロジェクターを天井に設置できるよう工事は行ったが、プロジェクターの購入は、2024年度以降となる。プロジェクターが使える状態になれば、さらに「きやれ」の利便性は高まるだろう。